



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年5月1日

5月号・第208号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



＜野菜畑の整備＞



## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

|                    |     |              |    |
|--------------------|-----|--------------|----|
| 壮春力歩               | 1   | 新人歓迎会・報告     | 10 |
| Monthly Repo. ならやま | 2   | 4月自然観察会・報告   | 11 |
| 私のふるさと             | 3   | 桜祭り・報告       | 12 |
| 里山の今、鳥シリーズ         | 4・5 | 4月月例研修会・報告   | 13 |
| 字遊字感               | 6   | ならやまプロジェクト   | 14 |
| ならやま投句箱            | 7   | 行事案内1        | 15 |
| 図録集・報告             | 8   | 行事案内2、春のおたより | 16 |
| 3月歴文研修会・報告         | 9   | 幹事会報告・編集後記   | 17 |

# 壮春力歩

会長 鈴木 末一

## 笑顔さんと残念さん

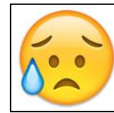
先月号でプロジェクト活動における「評価」という営みについて考えてみました。より具体的なプロジェクト活動の一例を取り上げて思いを巡らせてみたいと思います。

「文字情報があたりまえにある社会を目指します」というミッションのもとでの活動、つまり聴覚に障がいを持つ人たちに、手話ではなく文字情報で同時通訳的に情報を伝達するプロジェクトについて考えてみます。



このような支援活動を通してのアンケートに、次のような意見が寄せられていました。

- Aくん(小学4年生)：皆と一緒に笑えてうれしい。  
 Bさん(小学5年生)：毎日、全部の授業でしてほしい。  
 Cくん(小学6年生)：友達と同じタイミングで情報が受け取れて、一体感を感じられた。  
 Dくん(中学1年生)：聞こえなかったり不安に思う部分を、文字で確認できて授業がよくわかる。  
 Eさん(短大生)：授業中の先生が、こんなにたくさん話すのだとはじめて知った。自分に聞こえていない部分があることに気付いた。  
 先生：学力がないと思っていたが、聞こえていないだけだと気付けた。  
 校長先生：そもそも「伝わる授業とは？」から考え直すきっかけをもらった。  
 親：聞こえないと参加が難しい授業は、前日から不安定になっていたが、支援が入る日は、うれしそうに安心した表情でいる。  
 企業：聴覚障がい従業員も一緒に会議に全員参加できるメリットに気付けた。  
 聴覚障がい従業員：会社が自分のためにサービスを入れてくれて、存在価値を実感でき、会社に貢献できるようになりたいと思った。  
 以上のような声が、みんなと一緒に笑いたい、学びたいの想いを支えるという価値判断では、「笑顔さん」と位置づけることになります。



次に挙げます声は、価値判断では、「残念さん」ということになります。  
 Fくん(小学5年生)：授業以外でも、いろいろな時に文字になってほしい。

Gさん(小学6年生)：休み時間とか友達と遊ぶ時に文字になって欲しい。

中高生・短大生・大学生：入力しきれない部分があって、全ての情報が手に入らない。遅れて出てくるので、同時に出てきて欲しい。

兄弟：犠牲になっても、頑張って支えないといけない。本当は理解や共感が欲しい。

親：親が関わらないといけない部分があり、手間がかかりすぎる。

校長先生：横に補助員を配置したほうが担任も楽である。

教育委員会：経費が出てくる制度がない。

企業：経費がかけられない。補助制度がない。

以上は、このようなプロジェクトについて寄せられたアンケートの中の様々な声のごく一部に過ぎません。しかし、「笑顔さん」と「残念さん」グループに分類を試みるにより、誰が何をしたいのか。また、何をしたいのかを、ヒアリングを通して体系的に把握することができます。4月号でも触れましたが、「評価」という営みについて改めて考えることが大切です。

リアルタイムの文字情報提供のプロジェクトが、何故普及していかないのかに思いを巡らせてみますと、支援する側からの評価ではなく、支援を受ける側にスタンスを置いたヒアリングが大切であることが分かってきます。つまり、アンケートやヒアリングにあたっての問いかけの言葉も見直すことが求められます。

このように目的を持った評価でなければなりません。ただ単なる説明責任のための評価だけが評価ではないのではと考えられます。

評価とは、体系的な情報収集に基づく事実の特定、つまり調査に一定の明確な基準に基づく価値判断がプラスされたものであるといえるのではないのでしょうか。

「笑顔さん」と「残念さん」の分類にチャレンジしてみようではありませんか。



## Monthly Repo. ならやま

八木 順一

### 3月22日(金) 振替活動 曇り 51名

振替活動。しかし、新入会員歓迎会等のイベントもこれからはめじろ押しで、その準備や打ち合わせで大忙し。里山 G では、薪棚付近の橋の架け替えやイベントの準備、エコ G は春野菜の種まき、そして景観 G はならやま大通りの南側斜面の竹林の整備を行う。またビオ班は蓮池やタナゴ池の溝の整備、花班は日陰植物園の草取りと整備、パト G は4コースのパトロールと倒木処理・笹刈りを行う。

### 3月28日(木) 活動 晴れ 89名+1名

新入会員歓迎会。一週遅れの実施になるが、多くの会員が集まる。バーベキューや焼きそば等がテーブルに山盛りに。今年は11名の新入会員が対象になったが、当会に早くなじみ、充実した素晴らしい一年の活動になるよう祈る。会食後にはパネルを見ながらの簡単なオリエンテーションが行われる。林野庁視察。里山 G はイベントの準備や井戸の溝蓋作り、エコ G はエンドウのネット張り、そして景観 G は竹林整備を行う。またビオ班は溝整備、花班は日陰植物園の草取りや整備、パト G は観察路整備と1コースのパトロールに出る。

### 4月4日(木) 活動 晴れ 80名+6名

新しい年度がスタート。打ち合わせは図録報告や協働活動、そして新入会員のオリエンテーション開催のお知らせ等が中心になり、協働活動はサ



イト南側の溝の掃除や観察路の笹刈りの他アダプトプログラムが行われる。近大から5名、シニア生1名。ま

た、昼食後には新入会員のオリエンテーションの一回目が行われる。里山 G は薪割りと林内整備、エコ G は施肥やタマネギの草抜き、景観 G は竹林整備を行う。またビオ班は池整備、花班は日陰植物園の整備、そしてパト G は2コースのパトロールと観察路の草刈りを実施。

### 4月11日(木) 活動 晴れ 84名+2名

花冷えの一日になったが、今日は県の人事異動に伴う新任者の来訪や新しいチップー機の購入の他に、新入会員のオリエンテーション等の話し合いもあり、忙しい一日になる。打ち合わせでは新しい機械の購入の件や図録の販売の件が中心になる。里山 G はテントの目隠し修理と天平祭の準備、

エコ G はナスの鉢上げや畝作り、そして景観 G は竹林整備とタケノコ掘りを行う。またビオ班は水生生物調



査、花班は花畑の草取り、パト G は3コースのパトロールと丸太階段補修用の杭作りの他、観察会を実施。

### 4月18日(木) 活動 晴れ 88名+4名

タケノコ掘りが行われ、全部で90本近くが収穫され、早速タケノコご飯が供

される。打ち合わせでは、タケノコご飯実施の件や図録の配布



の件等が連絡される。また、実りの森に鹿が度々出没し、作物を荒らしているとのこと。シニア生4名。里山 G では、枯死木の伐採やイベントの準備、エコ G は野菜の畝づくり、そして景観 G は竹林整備を行う。またビオ班は木道整備、花班は日陰植物園の草取りと整備、パト G は4コースのパトロールと補修用の杭作りを行う。その他果樹班は草刈りに取り組む。



私のふるさと

## 西宮の思い出

守日 京子

今まで9カ所移り住んだうちの2つ目の西宮のことを書きます。小さい頃の12年間でした。

(遊び) 家の外全部が遊び場で、道も空き地もよその家の周りもどこでも遊んだ。ままごと、○○ごっこ、けんぱ、べったん、いんさ、しのびあし、まりつき、ビーだん、ゴム跳び、名前のない遊びの数々。ゴム跳びの時はスカートをパンツの裾のゴムのところに入れてブルマーのようにして、思いつき右足を右後ろに振り上げる。うまく爪先がゴムに引っかかると成功。徐々に高く跳べるようになり、夢中で遊んだ。その姿を想像してください。再現は無理だけど。

(進駐軍) 時々進駐軍のジープが来ると、みんな  
で寄って行って、ハロー、ハローと叫んだ。すると  
アメリカの兵隊がガムをくれた。甲子園にいた  
進駐軍はやがて帰っていき、そのあとに大きな団  
地ができた。

（転校）子供の数が急に増え、校区の線引きが変わって我が家は隣の校区となり、集団で転校した。西宮全部が大変だったんだろうと思うが、子供はいたってのどかで素直に新しい環境に慣れた。そして私にはライバルが現れた。カワノ君は勉強がよく出来た。私は内気であかんたれやったけど、意外と負けん気だけ強かった。勉強ではかなわなかったけど、体育では勝っていた！ だってカワノ君体育へたくそやったから。それでも灘中（→東大）へ行かへった。悔しい。

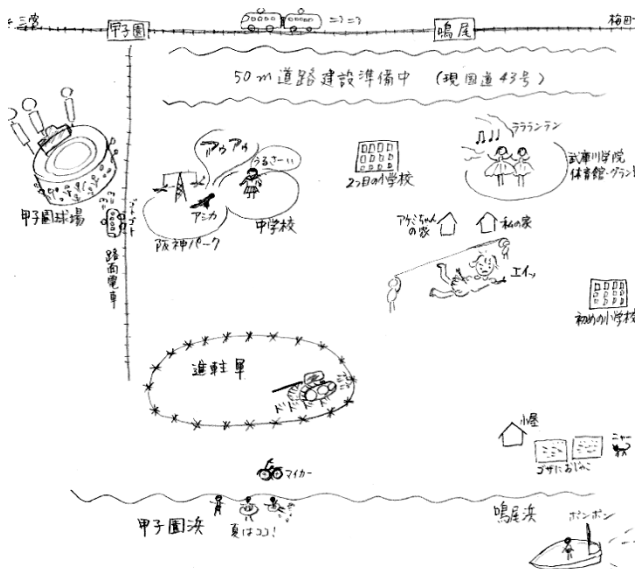
(甲子園) アドバルーンが上がり、時には花火もあった。野球があると阪神ファンの歓声が家まで聞こえた。路面電車もごとごと走った。プロ野球はお金がかかるので連れて行ってもらえなかったけど、高校野球の外野はただで、しょっちゅう行った。私も出場した。野球じゃないけど。一度は市の小学生連合運動会。何千人も一緒にダンスを踊った。二度目は鼓笛隊のパレード。重いアコーディオンを抱えてよろよろと演奏した。父が会社を

抜け出して応援に来てくれた。(涙)

（魚）仲良しのアケミちゃんはお向かいの家の子で、両親は鳴尾浜の漁師だ。遊びに行くとおばちゃんたちは小屋で網の修理やだしじゃこづくり。「猫を追えといて」と言われて、堤防で干してあるじゃこの見張り役を頼まれたけど、たいいていきに飽きてどっかへ遊びに行ってしまった。おじちゃんはポンポン船で魚とり、たまに乗せてくれた。小鰯が大漁のとき、ボールに山盛り気前よくくれた。勝手口の外で七輪出して魚を焼くのは私の役目。こんがり焼いて二杯酢につけるとじゅっとなった。

（武庫川学院）女の人たちがよくグラウンドでダンスの練習をしていた。長いスカートををはいて、校歌に合わせて大勢で踊っていた。くるくる回るとスカートが広がってきれいだった。フェンス越しにずっと眺めていた。「ラランランララ・・美しいむこが一わ、むこが一わが一くいーん」何でも歌えるのかなあ。

(父への思い) あの頃は何も思わなかったけど、今になって父がどんな思いで子供たちを育てていたか想像する。南方戦線でマラリアにかかり生きて帰ってきた父。理不尽な世の中に対する怒り、悲しみを癒したのが、貧しくても平和な戦後の生活だったのだろう。言論の自由が保障され、男女平等の教育が受けられることの喜び。「行きたかったら、大学行ってもええで。そやけど東大はあかん(言ってみただけ)、早稲田慶応はもってのほか、近いとこで、官立で」そう言ってくれた父に改めて感謝。ふるさとにももちろんいっぱい感謝。





## 里山グループ

池山 良武

### ◆ 作業中に思うこと

山班の仕事は、何人かのグループに分かれて作業をすることが多い。その中でわいわい話しながらの作業も楽しいが、草刈作業だけはエンジン音もあって、半日くらいを無言で過ごすことも多い。けれどもそんなときにいろいろなことに思いを巡らせ考えていると孤独どころか、目に見えぬ、かつての里山の人々と親しく会話をしているような気になる時があり、楽しいものである。

先月の活動日に、杉林の下草刈りをしている折、といっても背の高い笹やつる草、低木などで踏入る余地もない箇所や深み、水たまりもあり、歩くことさえ困難なところもあるが、そんな地面が全体的に妙に波打っていることにも気付いた。多分この所は5、60年前までは名も知れない人とその家族らによって、一畝一畝、耕され、周りの山林からは薪炭を得て、生活していたのだろうと想像する。「この地は私たち、ならやまプロジェクトのメンバーによって受け継がれ、私は今、刈払機でこの所を生かそうと作業をしています。」

まるで祖先の墓の前で話しかけているようで実に気持ちが落ち着き、癒やされる瞬間でもあった。

主のすみかはどこにあったのか。物的資源は身近にあったのか。この地を生活の基盤としていた人たちは、それなりの知恵と適応力でこの里山をごく自然に守り、暮らしてきたのだろう。

「ならやまプロジェクト」のメンバーには、環境を基盤とした今日的里山を築かねばという使命感で活動する人、レクリエーション・健康目的で参加する人などさまざまで良いが、今日的里山形成にはメンバーの知的総力の結集を図らねば単なるファミリー農園になってしまうのではないかと思う。都会暮らししか、経験したことのない世代が将来この里山を継承していく日は近い。その時、道を間違えると的外れの里山「老人の遊び場」と化していないか。杞憂となれば良いが。



## エコファームグループ

岡田 安弘

### ◆ 手のかからぬ イタリアン・トマト

バスを降りて、竹林をくぐると「スズメバチに注意」の立て札。向こうに里地、里山が広がる。初めてベースキャンプを訪れた、1年半前のことだ。赤い小玉の実る枝を束ねる女性に尋ねた。会員が持ち帰れるようにハナナスを収穫していると知る。

日ごろ食べる野菜はともかく、活動を重ねる度に知らぬ野菜に出会う。サトイモは最上川の一家相伝「甚五エ門芋」だそう。佐保台小学校で開く自然教室では、ジュズダマに初にお目にかかるといった具合で名前をメモする日が続く。

とうとう、この欄に書く当番が回ってきた。何を書いても皆さんにとっては常識だろうと思うと、書くことがない。困り抜いて、イタリアン・トマトの栽培体験を話すことにする。

ならやまの活動に参加する半年前、自宅近くの貸し農園に空きができたので、友人が「これなら手間がかからず失敗もないし、ワインにも合うよ」とイタリアン・トマトの苗、シシリアンルージュ、アマルフィ、ロッソアモーレ、サンマルツアーノの4種を届けてくれた。

サンマルツアーノは、わき芽がたくさん発生するが、下部のわき芽を摘む以外は放置するようと言われている。本当に手間いらずだった。支柱のてっぺんを越すほど高々と茂り、親指大、ラグビーボール型が無数に実る。味はいまいちで、トマトソースにする。

シシリアンルージュは丸型のミニ。2分の1に切り、大きなザルに並べること3回。塩をふって天日にさらすこと4日。直径1cm 余りの乾燥果実の出来上がり。真夏の日光をいっぱい吸い、体に良さそうな気がする。他の2種はミニと中玉。味は国産トマトにはかなわないので、ほとんどジャムにする。トマトソースとジャムは、知人が運営する「こども食堂」で役立ててもらった。わき目もふらず、いや違う、わき芽もとらずに放置。ずばらな自分にぴったりの畑作だった。



## 景観グループ

山中 笙子

### ◆二十四節気と春の訪れ

1 年で一番寒い**大寒(1/20)**を迎えると節気を意識する。西池辺りや畑に降る霜や冷たい風、作業中の指も寒さで痺れる。が、半月後の**立春(2/4)**を知ると辛抱できる。冬至から徐々に日が長くなり大地が暖められ春の兆しを感じ、生き物は準備を始める。万物が発(は)る、草木が張るは春の語源。春告鳥のウグイスも地鳴きから「ケキョ、ケキョ」に変わり始めた。目につくのは白梅、椿、スイセンの花。とは言え 2 月はまだまだ寒さ厳しく、花班は霜囲い、寒肥やりの作業をする。

**雨水(2/19)** 降る雪が雨に変わり、積もった雪は解け流れ出し空気や大地が緩み潤って草木の芽が出始める。言葉の如く本当によく雨が降り、春に 3 日の晴れなし。春の兆しから春の気配へと変化。道端でスマレを見つけ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、タンポポが陽に輝く。一方、気圧配置の変化による春の嵐、春 1 番も吹き不安定な天気。

**啓蟄(3/6)** 暖かい気配を感じ虫が蠢く。植物の若芽や蕾の先が色づく。昔の人は花咲くことを笑うと書いたらしい、花を眺める人も笑顔。ならやまの菜の花に小蜂が飛び交い、沈丁花の香り、ムラサキハナナ、スノードロップの花を楽しみながら霜囲い撤去、施肥、柵の作り替え等を行う。

**春分(3/21)** 気温が上昇し花が

次々と咲き乱れ春爛漫。春の錦、芳春、花曇り、春愁、おぼろ月夜、春雷、花散らし、と多くの言葉が

この季節を表す。カキドオシ、カラスノエンドウ、チューリップ、ユキヤナギ、レンギョウ、桜が幸せをくれる。仲間に誘われて、ならやま大通りへの階段を登り上から眺めるならやまの風景は、少し霞がかかり春うらら、美しい！

二十四節気は季節の移ろいを事前に示し、自然をより深く知り、人の心を温かく柔らげ、喜びをくれる。自然に対し畏敬の念と感謝を思う。4 月の青葉の候の清明(4/5)、恵みの雨の穀雨(4/20)が、少しずつ夏へと季節の変化を教えてくれる。

## 里山の今



## 鳥シリーズ

小田 久美子

### ◆天才 仰天 「蛇口カラス」

日本カラス研究の第一人者、樋口広芳東大名誉教授のカラスの研究論文がイギリスの鳥類専門誌「ブリティッシュ・バード」に発表され世界が大変驚き報じていました。



そのカラスが目撃されたのは、横浜市の弘明寺公園水飲み場のカラスです。人が使い易くデザインされた三角状の蛇口のハンドルを少し回して水を飲み、更にもう少し回して水浴びをしています。この姿は公園を散歩する人たちには数年前から目撃され有名カラスだったようです。恐らく公園に來た人間の行動を観察し、理解しての行動だと思われます。ニューカレドニアのカラスが道具を使って木の中にいる幼虫を食べる事は 1996 年の論文で有名で、賢い生き物だという事は周知の事でした。

券売機でキップを買うカラスが賢い・可愛いと評判になったと昨年 7 月号に書きましたが、これは恐らく飼育下のカラスで、人の言葉を理解していたのだと思われますが、このカラスは野生のカラスなのです。近くに川もある環境なのになぜなのか、教授は目撃の時期に注目。恐らく子育ての時期で、巣からあまり遠くへ行きたくないからではないかと推測しています。

一見こわもてのカラスも黒目勝ちなつぶらな瞳。羽色はカラスの濡れ羽色が真黒のように見えますが、よく見るとメタリックな青い色が見えます。

『万葉集』には 12-3095 作者不詳

朝鳥 早くな鳴きそ 我が背子が

朝明の姿 見れば悲しも

(鳥よ そんなに早くから鳴かないでくれ

あの方の 夜明けに帰られるお姿を 見るのはつらいから) 他、3 首が載っています。

字遊  
字感

上質の笑い人間愛

岡田 安弘

奈良・三条通りの菊岡漢方薬局が「ならまち」に引っ越す前、私の勤め先は真向かいだった。職場の2階から、築百年の薨（いらか）を眺める。岸边に打ち寄せる小波のよう。波頭が朝の光を受けてきらきらと美しい。心が癒された。

創業は元暦元年（1184年）。23代当主の菊岡義政さんは彫刻家でもあった。薬の調合を終えると、アトリエに籠ってしまう。そのころ私は脂肪肝を患っていた。「肝臓に効く薬はありませんか」と相談。お目にかかったのは、その1回きり。転勤後も薬を郵送してもらい、肝臓は正常を取り戻す。

平成19年、88歳の生涯に幕を下ろされた。それを知らず、お礼を言えなかったのが悔やまれる。

詩人でもあった。昭和28年、33歳で詩集「回転木馬」（200部）を出版。父から24代を受け継いだ泰政さん（63）は「蔵を探しても残部はなく、ネット検索で1冊を見つけました。私が生まれて間なしの作品だけに感慨深い」と喜びを語る。

大正から昭和にかけて活躍した日本画家の不染鉄（ふせんてつ）は、23代当主と親交があった。あのたたずまいが好きで、水彩画「三条通りの菊岡家」を描く。ならまちの薬局に飾られている。

彫刻は鹿の木彫りに力作が多い。ホテルフジタ奈良のロビーには、日展出品作が飾られている。

等身大の鹿の彫刻には、直径の大きい材木が二つ必要だ。23代の弟、統政（むねまさ）さんによると、角がある前肢と後ろ半身を別々に彫り腹部で接合。くりぬいた腹部に、母親が春日大社でもらったお守りを必ず納めたそうだ。

昭和28年の第9回日展で入選した「若い鹿」は、昭和天皇が奈良公園を思い出されたのだろう、作品の前ではほほ笑まれる写真が朝日新聞奈良版に掲載される。統政さんが投稿した。

「私が作品を白い布で巻き、上野の美術館へ搬入した。奈良から東京へは直通の夜行急行大和号でした」と懐かしむ。

統政さんは87歳。元英語教師。王寺中学から最後の片桐高まで管理職を嫌い教壇一筋。喜劇王チャールズ・チャップリンの研究者でもある。

天理大英文科に通うころ、奈良市内の尾花座で「ライムライト」を見たのがきっかけだ。「これほど腹から笑い、熱い涙を流したのは初めて」と言う。「独裁者」をはじめ次々に鑑賞し、チャップリン映画の笑いの源泉にたどり着く。

「ただ笑わせるだけではない。弱者を泣かせないための上質な笑い。一貫して流れるのは人間愛。世の権力や不正に立ち向かう勇気を与えてくれた。人間が背負ってしまった悲しさも包んでくれます」。

日本ヘラルド映画社が1977年、「チャップリンと私」をテーマに小論文を募る。統政さんは最優秀賞に選ばれた。同年11月30日、スイス・レマン湖畔のチャップリン邸へ招待される。チャップリン、88歳。体調が芳しくない。面会はかなわなかった。

和紙に毛筆で「祝 米寿」。続けて英語で米寿の意味やチャップリン映画との出会い、家族と奈良の紹介などを記す。和綴（わとじ）にしてウーナ夫人に託す。「人生の最後を静かに迎えようとしていたのかと思うと、泣けて泣けて仕方なかった」と話す。

お礼のクリスマスカードと、その春の誕生日に撮影した写真が届く。スイスの消印は同年12月17日。愛用のステッキを右手に握り、ブルーのセーターが上着の下からのぞく。言いようのない感動に包まれる。

「We I o v e t h e b o o k y o u m a d e」とあり、I o v eにアンダーラインが引いてある。和綴の本を気に入ってくれたのが何よりもうれしい。

数時間後のこと。外電が「チャップリン逝く」と伝える。天国への旅立ちはクリスマスだった。

類につとふ シネマの中のひとすじの

涙の熱き 想い出のあり

統政さんは歌人でもある。短歌誌「花梨」の同人になって54年になる。





# ならやまトーク・投句（春酣編）

〈山の辺の道 万葉歌碑探訪〉

歌碑訪ひて山の辺の道春日満つ

杉本 登

（歴文クラブの万葉歌碑巡りは、春一番を思わせる日和に恵まれた）

石上<sup>いそのかみ</sup>辺り歩けば早や桜

田代 一行

（石上神宮からの山の辺の道。暖かさに気の早い桜がもう咲いて）

八朔の棚に義理立て肩重し

杉本 登

（名物の無人の店に八朔が並ぶ。つつい買つてリュックが重い）

辛夷<sup>こぶし</sup>の里犬養節に響<sup>とよ</sup>みけり

八木 健彦

（辛夷の花が咲く里辺り、歌碑の前で一同の犬養節が響き渡る）

奈良路土筆にはやる指忙し

中井 弘

（手白香媛の奈良陵へ向かう畦道。土筆採りに夢中の媛たち）

袖振るや万葉乙女も菜の花も

青木 幸子

（柳本あたりは一面の菜の花畑。揺れる花と恋人に袖を振る万葉の乙女のイメージがオーバーラップする）

奈良道の歌碑に唄へば山おぼろ

阿部 和生

（本日のハイライトは奈良道の歌碑。人麻呂の哀慟の挽歌を弓月ヶ岳に向つて斉唱する。異国のメロディーに驚く外国の観光客）

〈ならやま春爛漫〉

ニユーフェイス歓迎野宴土筆伸ぶ

鈴木 末一

（新入会員歓迎会、冒頭の挨拶はこの一句で決まる）

ようこそと川井桜の咲く気配

岡田 安弘

（多くの新人を迎えて、川井さん遺愛のサクラも急ぎほころぶ）

サイトにも若き声増え春盛る

八木 順一

（今年も多くの新入会員の顔が揃う。「若き」と詠み人は言う）

かの人の声するがごと<sup>ねはん</sup>に<sup>に</sup>涅槃西風

古川 祐司

（桜が咲き、西風が優しく吹き始める。諸先輩の温顔が浮かぶ）

落味噌の苦みや姥が握り飯

小山 喜子男

（手作りのお握りに、落味噌がほろ苦い。頑張るのも程々にと）

温暖化の罪も悔過<sup>け</sup>して修二会明く

古川 祐司

（例年になく暖かなお水取りだった。地球温暖化は吾等の罪と）

木々の芽や飛天の舞いて踊るごと

古川 祐司

（春の里山。新芽が様々なポーズで枝に踊る、水煙にかかる飛天の舞）

花芽踊るブルーベリーの若き株

古川 祐司

（5本の若木を植えた。ピンクの花芽がほころぶ様子が嬉しい）

春眠や身じまい止めし酒笑う

岡田 安弘

（今日こそは、と思うばかりの身辺整理。すぐ眠くなる季節のせいだ）

投句歓迎（古川まで）



## 図録発刊の道のり

「見つけよう自然のなかま

ーならやまの昆虫と植物たちー」

会長 鈴木 末一

始まりは、ならやまを巡視していて、カメラを構える菊川年明さんを見かけたことからです。

チョウにそっと近づき、シャッターを切っておられました。活動日ではない日のことです。被写体は動く昆虫です。その瞬間のシャッターチャンス求めて、ならやまを十数年も探索されてきました。昆虫大好き少年だった菊川さんは入会以前から昆虫を撮り続け、ならやまだけでもフィルムに収めた昆虫は600種を超えました。貴重な写真は、会のホームページを飾っています。

一方、木村裕さんは、ならやまプロジェクト活動の記録を残すために、各グループの活動をくまなく巡回して撮影する合間に、生息している植物の姿をカメラに収めてこられました。その数約200種に及びます。そして西谷範子さんは、花班のリーダーとして活動しながら、四季それぞれを彩る植物などをカメラに収められていました。お三方の保持されている貴重な知的財産をこのままにしておくのは、との思いは日々高まるばかりでした。

我々の活動は社会のニーズに合致した里山創生を目指さねばなりません。ならやま里山林は市街地にありながら、植生の豊かさで稀有な存在です。恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐのは使命です。子孫から借りている自然資源であるとの自覚を忘れることがあってはなりません。図録の作成は、森林環境教育にとって有効かつ多面的に活用できると考えました。「すべては次世代の子どもたちのために！」がスローガンです。子どもたちが自然のあり方に接し、自然の不思議、自然の魅力、自然の大切さを実感するきっかけになれば、との思いがついに動き出しました。

菊川さんが十数年かけて同定された昆虫類約600種のうち200種、木村さん西谷さんが同定された植物200種の写真データを整理し解説文を執筆しました。「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」と名付け、イベントに参加し



た子どもたちや保護者の方々が自然に目を向けるきっかけにしたいと考え、その資金作りに、トヨタ環境活動助成国内小規模プロジェクトに応募しました。7月31日付け第一次選考通過との朗報。さっそく図録編集委員会を

8月9日に立ち上げました。お三方の他に、青木幸、阿部、岡田、辻本信、平岡、古川、吉川の皆様方に委員をお願いし、内容構成、利活用の方法、担当割り当て、生きた教材にするには、知的好奇心を引くには、などの話し合いからスタート。また、表紙デザインを公募したらとの発議があり、会員のお孫さんと佐保台小学校の児童たちから作品を募集することにしました。

内容構成について、昆虫編はいとなみ編と四季編の2部構成に、植物編はより知的好奇心を養えるよう楽しい内容にするとの大要が決まりました。

いよいよお三方中心の奮闘がスタートです。委員会を重ねるにつれ、解説文に使う教育漢字への配慮、表現の検討、用語の注釈などについて何度も意見を交わし、主な読者である小学生にとってより親しみのある図録にと、徳地さんにも途中から参画していただき、熱心な編集作業が続きました。

10月21日、助成金について本選考決定との連絡。編集作業に一層拍車がかかり、12月18日には、表紙デザイン表彰者・作品も決定しました。

年明けとともに、編集作業は校正が中心となり、各委員からの膨大な指摘、意見を吟味しつつ、来る日も来る日もパソコンと向かい合いました。3月25日、皆さんの叡智を結集した労作がようやく完成。委員会立ち上げから約7カ月に及ぶ一大プロジェクトは一段落しました。

手前味噌かもしれませんが、図録は、他に類を見ないものであり、会にとっても知的財産の一つになると自負しています。今後は、有効利活用について深め合うことが大切です。会員の皆様のお知恵を是非お貸しいただきますようお願いいたします。

## 歴文3月・月例研修会報告 山の辺の道

杉本 登

3月の例会は天理から柳本まで山の辺の道を北から南へ歩く行程である。

日時：平成31年3月20日（水）10時 J R天理駅前集合で、参加者は24名であった。



行程：J R天理駅前（歌碑）→天理市役所前（歌碑）→石上神宮外苑（歌碑）→石上神宮鳥居前（歌碑）→石上神宮→内山永久寺跡→天理観光農園（昼食）→夜都伎神社→萱生環濠集落（歌碑）→手白香皇女衾田陵→衾路（歌碑）→天理トレイルセンター→黒塚古墳展示館→J R柳本駅

お水取りは終わったが、三寒四温で日替わりの不安定な天気が続いていた、今日はすばらしいお天気でハイキングには絶好である。天理駅前の万葉歌碑の前で本日の行程と柿本人麻呂の紹介を行った。人麻呂は万葉集に長歌19首、短歌75首が載せられており万葉集を代表する歌人の一人であるが、その生涯は謎が多く詳しいことは分かっていない。平安時代になって神格化され「歌聖」と呼ばれたり三十六歌仙の一人に選ばれている。天理市内の万葉歌碑は立派な歌碑が建てられ、全て万葉仮名で刻まれている。天理市の「万葉集」にかける思いがうかがわれる歌碑である。

「石上 布留の高橋 高々に 妹が待つらむ 夜ぞふけにける」巻12-2997

石上の布留の高橋の上でかわいいあの娘がつま先立ちで私を待っている ああ夜もふけてしまったなあの意である。いかにも万葉の恋人の様子がし

のばれてほほ笑ましい。布留の高橋に行ってみようとなり、古川さんと中井さんで先行して高橋に行ったが、古代をしのぶべくもない鉄の橋だということで高橋は止めて石上神宮へ向かった。ここは日本で一二を争う古い神社で、古代は物部氏の拠点でもあり大王家の武器庫であった。神宮に参拝し山の辺の道を南へたどる。しばらく行くと内山永久寺跡に出る。ここに芭蕉の句碑が立っている。



「うち山や とどまらずの 花ざかり」説明板に芭蕉の青年時代宗房のころの句とある。とどまは外部の人の意で、内山には地元の人しか知らないが桜が美しく咲いていると詠んでいる。内山永久寺跡の説明板を見ると大きい立派なお寺であったことが分かる。明治の初めに廃仏毀釈運動が吹き荒れ壊されてしまったという、惜しいことである。夜都伎神社を過ぎ、手白香皇女衾田陵へ向かう途中に菜の花が咲いていた。黄色い花が一面に咲いており、山の辺の道に良く似合う。

この辺りは大和国中が一望でき素晴らしい眺望である。遠くに大和三山、金剛・葛城の山々、二上山もよく見える。手白香皇女衾田陵に参拝し、最後の歌碑に向かう。人麻呂が隠し妻を引手の山（竜王山）に葬り涙も枯れはてるまで嘆き悲しんで詠んだと伝わる歌である。「衾道を 引手の山に 妹を置きて 山路を行けば 生けりともなし」巻2-212。歴文の皆さんも万葉集は朗唱するものと理解していただき、大きな声で歌うことができた、幹事としてはうれしい限りである。



**新入会員歓迎会報告****かっぱ酒に和む歓迎会**

岡田 安弘

心配された天候も回復した3月28日、新入会員（平成30年度の入会者）を歓迎する会が開かれた。アルコールが振る舞われるので、ノーカードーだ。奈良交通バスなど思い思いの方法で87人が参加した。お迎えしたのは12人の1年生。ホスト役は昨春に歓迎してもらった11人の2年生。慣れぬことばかりで、開催幹事の方、まかないの皆さま、ベテランの方々の手助けがなければ、運営はままならなかっただろう。ホスト役一同、感謝しております。ありがとうございました。

当初予定の3月21日は天候が怪しかった。まかないを担当した皆さまは前日、食材を買うべきかどうか、やきもきされたようです。ホストは鉄板や金網を洗い、活動説明のための写真掲示板を用意しました。結局、雨で28日の開催となる。この日も予報は一時雨。臨時テントを張る案もありましたが幸い降らずに済み、後半は日ざしで汗ばむほどでした。

「ニューフェース 歓迎野宴 土筆伸び」。鈴木末一会長は開会挨拶の冒頭、一句を披露。緊張気味の1年生の表情が和む。新会員を紹介し、奈良・人と自然の会の緑のイベント専用キャップと名札が一人ひとりに手渡された。午前中は定例の活動。新会員はベースキャンプのテント倉庫などを案内してもらった後、花班の活動に参加した。

メニューは焼そば、バーベキュー、収穫した桜島ダイコンの味噌田楽、メインは打ちたて「わんこ蕎麦」。蕎麦グループの4人が早朝、計4キロを打って持参してくれた。まかない班は食材の下ごしらえと、おはぎを作ってくれた。日本酒の寄贈もあった。ビール、ソフトドリンクと用意は万端。

開始30分前、ベテランの指導でホスト役が炭に火をつける。食材を鉄板に並べる。「焼きそばは早くから作り始めないと間に合わない」。ベテランにせかされる。正午、開始のアナウンス。炊き出しに長い行列ができた。みんな食欲旺盛だ。1時間

余りで完食。キャベツが数枚残っただけ。「おいしかった」の声がうれしい。お世辞ではないでしょうね。

食後は活動説明。東屋を囲むように活動ぶりを撮影した写真をかかげている。各班のベテラン担当が説明し、1年生が熱心に聞き入る。食事が済んだころから竹筒の燗酒を求める人が絶えない。この竹筒では、ひやりとしたことを書かねばなるまい。



やかんで酒の燗をするのだとばかり思い込んでいた小生。そこでベテランから見せてもらったのは昨年の写真。やかんではない。太い竹に穴を開けて酒を注ぎ、焚き火の熱で燗をしている光景だ。少々慌てる。ホスト数人に頑張ってもらう。竹を刈りにノコギリを手に里山へ。酒を注ぎやすく筒の先を斜めに切る者。急いで対応しているところに「杯も竹の節を活用しよう」との注文が加わる。とにかく30個を作った。あとはコップでどうぞ。

6本の竹筒の酒は足しても足しても空になる。最後は日本酒に焼酎を継ぎ足すミスも。抗議する人はいない。みんな優しい。ならやま恒例の宴席風景を再現することができ、ほっとした。酒は一滴も残らず。

田中克彦さんからは手作りのお雛さんを28組も寄贈してもらった。これは1、2年生がいただきました。数点余ったのは、ならやま恒例の「最初はグー」で決めた。

最後に1年生への伝言。太目の孟宗竹を2本伐採。1本を3本に切り6本の竹筒を作る。焚き火の傍に筒をもたれさす杭と棒が必要だよ。独特の竹の風味が溶け込んで旨くなる。当会の野外の宴で必ず準備する伝統の熱燗だそう。注ぐと、かばかばと音がすることから「かっぱ酒」というと教わる。

## 自然教室だより

### 4月・春の奈良公園自然観察会報告

辻本 信一

平成 31 年 3 月 27 日 (火)、平成最後の自然観察会を奈良公園にて実施しました。昨年は桜(ソメイヨシノ)の開花が 10 日近くも早まり、今年は先手を打って 3 月中の開催としましたが、思いのほか肌寒い日が続き、予想は見事に外れ(ソメイヨシノ)開花宣言前の桜見物となりました。

それでも奈良公園の桜はソメイヨシノだけではないことをご存知の<sup>すいじん</sup>粋人 14 名が集合。この時期満開となるヒガンザクラ(エドヒガン、コヒガンザクラ)さらにはエドヒガンの変種シダレザクラを中心に春を告げる可憐な花の数々をみんなで堪能いたしました。



参加者の皆さん

まず足を運んだのは、浮御堂がある鷺池・荒池周辺。そちらでは、先の方でよく枝分かれし、杯形の樹形から遠くからでもそれとわかるコヒガンザクラに出会いました。



コヒガンザクラ

小高木のコヒガンザクラは、目の高さでじかに花を観察できるので、花の特徴を観察するのに最適です。皆さんに注目して頂いたのは筒状になった<sup>がく</sup>萼筒<sup>がくとう</sup>の部分。エドヒガンの萼筒は大きな丸みを帯びた壺型ですが、コヒガンザクラはこの壺型の部分が比較的小さく、その上の直線部の方が少し長いと言う特徴があります。そのエドヒガンには午後から立ち寄った浮雲園地で出会いました。



浮雲園地のエドヒガン

鷺池周辺では、一目見てモクレン(マグノリア)科の花と分かる真っ白な大きな花があちらこちらで満開。近づいてみるとそれぞれ種が違い、ハク

モクレン、コブシ、シデコブシ 3 種の競演でした。

ハクモクレンの花弁は 3 枚の<sup>がくへん</sup>萼片も花びらそっくりで 9 枚のように見えます。コブシは 6 枚で特徴のある緑色の葉が 1 枚ワンポイントで付いています。シデコブシは、文字通り四手のような花びらが 12 枚以上付いているのが特徴です。恐らく計画的に植えられたものと思いますが、近くで見比べながら観察ができ良い勉強になりました。



鷺池そばのコブシ



高台にはハクモクレン

昼食は高台の四阿で弁当を広げ楽しく歓談。その後、エドヒガンのある浮雲園地を通り、新公会堂の日本庭園に直行。こちらでも満開のコヒガンザクラに出会いましたが、お目当ては 4 月号会報でも触れたカタクリの花。このところ寒い日が続<sup>あずまや</sup>き、出会えないかもとある程度覚悟していましたが、参加者のお一人が目ざとく<sup>つぼみ</sup>蕾を発見。その声で全員が活気づき、目を凝らす先には見覚えのあるカタクリの花の可憐な蕾。全員が夢中でシャッターを切りました。恐らく 1 週間後にはたくさんのカタクリが咲きほころぶことでしょう。



可憐なカタクリの蕾

こちらでは、房状の黄色の花をいっぱいつけたトサミズキ、赤みを帯びた園芸種の立派なアセビの花が目を引きました。例年のことながら、締めは氷室神社のシダレザクラ。こちらもしっかり満開となっていました。残念ながら昨年の台風によるものか、大木の方は 3 本の枝が切れ元<sup>つぼみ</sup>気無く、小さい方が頑張っていました。



氷室神社のシダレザクラ

このように春の訪れをからだ全体で感じませんか? 次回、観察会でお待ちしております!



## 桜は3分咲き・店は満開!

### 佐保川わいわい桜祭り・人気 No. 1

鈴木 末一

第17回佐保川わいわい桜祭りは3月30日(土)、予定通り開催されました。当会からは6回目出店です。例年なら佐保川堤防は、桜色に染め尽くすところです。今年は気温が低く、あいにく3分咲き、そのうえ曇天模様。お客さんの出足が心配でしたが、予想に反して開店前から待ちわびる人が並び始めました。

前日、10人のスタッフが食材の買い付けと下ごしらえで夕刻まで奮闘。昨年は途中で食材などの買い付けを2度3度、うれしい悲鳴を上げたこともあり今回は多めに用意しました。メニューは鶏肉の唐揚げと焼きソバは300円、ネギ焼きは200円の3種。スタッフ22人が食品バザーコーナーで、プロ顔負けの手際よい調理と販売に対応。



瞬く間に長蛇の列ができ、22人はてんやわんやの忙しさ。休む暇もありません。通い慣れた客は味付けをご存知です。「ここのは、どれもおいしいからね」と声掛けしてくれる方々も見かけました。



例年だと、うどんの店がありましたが、今年は出店されていなく、その影響もあったのか、昨年以上の人気店となりました。オープンから時間が経過しても客足は衰えるどころか増すばかりで、スタッフの皆さんには、ゆっくりと昼食を取っていただく時間もないほどでした。

閉店時間の30分前ぐらいになった時、ようやく客足もまばらになってきましたので、昼食を取っていただきました。結局、前日仕入れておいた食材は、全て完売となりました。

一方、自然工作では、小学生だけではなく、親御さんたちも、ジュズダマ・ブレスレット作りにチャレンジ。中には、お兄ちゃんが作ったジュズダマ・ブレスレットを見て、弟さんもチャレンジ。お互いに来栄えを自慢しあったり、お父さんやお母さんたちも一心不乱に取り組まれるなど、ほほ笑ましい光景を今年も見ることができました。作品が出来上がった時の成就感や達成感に満ちあふれた表情は、いつ見ても癒やされるものです。

今年は、総勢22名の皆さんのご尽力とご協力により、いままでにない成果をあげることができました。

そして、何よりも地域の一員として、本会の理念の一つでありま

す地域貢献活動として定着させることができました。本当にご苦労様でした。





## 4 月 月例研修会

### 奈良の三名椿・寺院・桜巡り

中川 徹

4 月 2 日、戻り寒波とかで前日は小雨、各地に季節外れの積雪が報道される肌寒い日でした。

近鉄奈良駅行基菩薩の噴水前には当日の参加者を含め 26 名が集まりました。

最初に「武士（もののふ）椿」がある伝香寺に向けて歩いて出発です。手前にある率川神社に立ち寄り 10 分余りで着きました。残念ながら椿の花は、若くして没した戦国時代の大名 筒井順慶の菩提を弔うかのようにほとんど散っていました。

椿の隣のお堂にある秘仏で、毎年 7 月 23 日の地蔵会に御開帳され真新しい御衣に着せ替えられる「はだか地蔵」を拝顔して奈良駅前のバス停に戻りました。



ななまるカード所持者は 100 円のバス料金で白毫寺バス停まで乗り、10 分あまりの歩きで高円山の西麓にある寺に着きました。山門にいたる階段を上るにつれて、奈良市内が一望されて見事な



景観でした。

樹 齢  
400 年の  
「五色椿」  
は、赤、  
白、桃色  
の花を一

本の一枝に付けていました。

本堂で住職の話を聞きました。一時は五色椿が弱り、専門家の手助けでやっと回復したことや、白毫寺は海拔 200m にあり、風が強く昨年の台風で被害を受けたこと、さらに椿とともに萩の花も

美しいことを知りました。

本堂の裏の宝蔵で仏像を拝顔し、昼食の場所である白毫寺の隣の東山緑地公園に移動しました。曇り空に時には小雨が降り、寒い風に薄着で参加した人は震えていました。

公園でほとんど開花していない桜を眺めながらの食事、少しばかりのお酒をいただきました。人気のなかったビールを飲み終え、1 時に出発です。



風も強くなり、小雨の中、東大寺の開山堂に向けての移動です。少ないお酒でも気分よくなる人があり、歩みは遅く先頭との距離が開き、行く方向が分からなくて立ち往生する参加者もありました。反省材料です。

途中、春日野国際フォーラムの庭園のカタクリを観察したり、国宝東大寺の鐘楼を見学したり、博学な参加者の解説を聞きやっと開山堂に着きました。

開山堂は東大寺開山の良弁僧の正座像が安置さ



れており普段は公開されてなく、「糊こぼし椿」は隣の四月堂から堀越しに見るだ

けでしたが、四月堂の基壇に花が展示されていて観賞できました。

最後に法華堂の解説を聞き、現地解散しました。

天候に恵まれず、予定外のコースを回りましたが、会員の知識に驚き、楽しい時間をすごしました。

奈良三名椿観賞と響きがいいですが、伝香寺の椿はもう少し早く、「五色椿」はもう少し暖かい日に観賞しておれば、花の蜜、花粉を求め飛びかうニホンミツバチを観察できたのにとっています。



## ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
活 動 予 定 日

|    |                                  |
|----|----------------------------------|
| 5月 | 2 (木) 9 (木) 16 (木) 23 (木) 30 (木) |
| 6月 | 6 (木) 13 (木) 20 (木) 27 (木)       |

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

### ◆アクセス

- ① J R平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
  - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統  
8：28 発、高の原行き（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統  
8：36 発 J R奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7 分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆ 連絡先：八木 順一



### 里 山

- 5/2 協働活動・アダプトプログラム  
9 16 薪割り／里山林内整理／下草刈り  
23 30

ホダ木本伏せ準備／薪割り／里山林内整理  
下草刈り

### エコファーム

- 5/2 協働活動・アダプトプログラム  
スイカ、ズッキーニ、ゴーヤ、胡瓜植え付け  
苗代管理  
果樹：鹿よけ（グミ）／BB 灌水  
蕎麦：蕎麦の間作／南京植付け  
9 サツマイモ植え付け／インゲン豆（つるなし）  
枝豆播種／苗代管理  
果樹：下草刈り（実りの森）／蕎麦：なし  
16 水田の水路整備（取水口排水口）苗代管理  
果樹：BB の灌水／蕎麦：なし  
23 茄子、唐辛子、支柱立て／エンドウ、ニンニク、玉葱収穫／苗代管理  
果樹：梅 黒星病除菌／蕎麦：なし  
30 田植え準備、苗代管理  
葱（九条、下仁田）植え付け  
果樹：BB の灌水／蕎麦：なし

### 景 観

ミツバチ：下草刈り

- 5/2 協働活動・アダプトプログラム  
整備：チップパー作業／BC 周辺草刈り  
ビオ池：西池水生生物調査  
花：花菖蒲園草取り・施肥／柵作り  
9 整備：チップパー作業／彩りの森周辺草刈り  
ビオ池：池整備／花：葉牡丹撤去、百日草種まき  
16 整備：チップパー作業／実りの森周辺草刈り  
ビオ池：池整備  
花：紫花菜撤去、風船唐綿種まき／向日葵種蒔き  
23 整備：チップパー作業／佐保自然の森周辺草刈り  
ビオ池：西池水生生物調査  
花：花生姜園整備施肥（3 か所）  
30 整備：チップパー作業／BC 周辺草刈り  
ビオ池：池整備  
花：紫陽花園草取り／秋海棠施肥・柵作り

### パトロール

- 5/2 協働活動・アダプトプログラム  
丸太階段補修／ミーティング  
9 丸太階段補修／安全ロープ補修  
16 丸太階段補修／保護植物ロープ張り  
23 30 丸太階段補修／笹草刈り

# 行事案内 part 1



## 5月・歴史文化クラブ研修会ご案内

### 「馬見古墳の主を求めて」

～ 馬見古墳群と新沢千塚古墳群を歩く～

風薫る5月14日(火)に、馬見古墳群と新沢千塚古墳群を歩き、4世紀から6世紀にこの地を支配した古墳の主を求めたいと思います。

馬見古墳群は、馬見丘陵にある大小約1000基の古墳群で、北群、中央群、南群の三つに分けられています。

主な古墳の、河合大塚山古墳、乙女塚古墳、巢山古墳、ナガレ山古墳、三吉石塚古墳を歩きます。

新沢千塚古墳群は、橿原市にある2km四方の丘陵に、約600基の古墳が集中してあります。この中の、126号墳からは豪華な金銀の装飾品が出土しました。

橿原市博物館でこのレプリカを見学します。

### (スケジュール)

- 1 日時: 5月14日(火)  
雨天決行(生駒交通バス使用)
- 2 出発: 西大寺駅・南口 8時30分  
時間に遅れないようお集まりください。
- 3 参加費: 3,200円
- 4 コース: (出発) 西大寺駅  
→ (バス) 河合大塚山古墳(徒歩で墳頂まで)  
→ (バス) 馬見丘陵公園館(トイレ)(徒歩で)  
→ 乙女塚古墳 → ナガレ山古墳 → 巢山古墳  
→ (バス) 三吉石塚古墳 → (バス) 橿原市博物館  
→ 新沢千塚古墳群(散策) → (バス) 西大寺駅  
(帰着予定時刻 17時30分)  
\* 古墳散策では、少し急な坂などもあります。  
\* 飲み物、昼食のお弁当をご持参ください。  
多数のご参加をお待ちいたします。
- 5 担当世話人 坂東 久平、古川 祐司
- 6 お問い合わせは、事務局 中井 弘まで
- 7 参加申込は、事務局 青木 幸子まで

参加申込 5月9日(木) 〆切

(27名定員になり次第、受付を終了します)

## 6月・月例研修会のご案内

### 柳生の里(柳生街道)を歩こう

新緑の柳生の里は盆地にひっそりとたたずみ、柳生街道を南明寺から阪原峠(かえりばさ峠)へ、名作が並ぶ石仏を過ぎると天乃石立神社(一刀石)、柳生一族の墓地のある芳徳寺、正木坂道場、家老屋敷など見学します。

6月は柳生花菖蒲園で花しょうぶが見られます。



### <実施要項>

月 日: 6月4日(火) 降水確率 60%以上中止

集 合: JR奈良駅 西口バス停 9時石打行(柳生)

持ち物: 弁当、飲物、雨具、敷物

参加費: 1,200円(拝観料、入園料含む)

担 当: 羽尻嵩、太田和則、富井忠雄

申 込: 富井

### <行 程>

JR奈良駅西口バス停9:11発-近鉄奈良駅-阪原バス停-南明寺-お藤の井戸-阪原峠-ほうそう地蔵-天乃石立神社(一刀石)-(昼食)-芳徳寺(柳生一族の墓)-柳生家老屋敷-柳生花しょうぶ園-柳生バス停15:43-近鉄奈良駅16:37着(行程約6km)



奈良市のななまるカードお持ちの方忘れずに!!





## 行事案内 Part2

自然教室チームだより 5月行事案内

### 新緑の歌姫街道・佐紀古墳群コース・自然観察会

3月4日に予定していた高円山・山麓コースでの自然観察会は残念ながら雨で流れてしまいましたが、令和元年の新しい年号の下、記念すべき、第1回目の自然観察会を5月20日(月)皆さまお待ちかねの「大阪自然史博物館友の会」副会長の田代貢さんを再度案内役にお招きし、新緑の歌姫街道・佐紀古墳群コースにて実施いたします。

植物の名前を覚えるだけの観察会ではなく、時に可憐に、時にたくましく、健気に生きる植物の姿に感動を覚えるような観察会を目指しています。

これまでも大好評の田代先生の解説を皆さまも、ぜひお聞きいただき、自然の魅力を堪能してください。

#### 1. 日時:

5月20日(月) 午前10時～午後3時(予定)  
(雨天中止)

#### 2. 集合場所:

近鉄京都線平城駅改札出口

#### 3. 持ち物:

弁当、お飲み物、(あれば) ルーペ、図鑑

#### 4. 観察ルート:

※近鉄平城駅→御陵に沿って西大寺方面を目指します→添御縣坐神社(そうのみあがたにますじんじゃ)にて昼食→水上池→平城京北端を歩き→近鉄大和西大寺駅にて解散

※途中、カキツバタ、タヌキモなどの水生植物(コウホネ、ジュンサイにも出会えるかも)、田んぼの植物、キンギョツバキ、ブナ科の花などを観察。自然の不思議に触れていただきます。

#### 5. 担当: 自然教室チーム 桜木/山本(美)/辻本



【添御縣坐神社】



【水上池】

## 春のおたより

石堂 純子

我が家の猫の額の庭で春を告げる植物が息づいていました。これらは「ならやま」からいただいたものばかりです。育つかない?とと思っていましたが、春のひざしの中で、育ってくれました。

愛らしくてかわいくて、思わず寄稿したくなりました。毎朝、水をやりながら、楽しませていただいています。

いいものをいただいたこと、感謝です。



## 6月ならやま活動&行事予告

### \* ならやま活動 (木)

6日 協働活動日

13日 佐保台小5年生田植え

20日 春の感謝祭

### \* 月例研修会 ハイキング

4日(火) 柳生街道を歩く

### \* 自然教室

12日(水) 佐保台小 放課後子供教室

17日(月) 大和民族公園 観察会

? 日 育英小 出前教室

## 平成31年・4月度幹事会報告

日時： 3月26日（火）14:00～16:50

場所： 奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：18名、欠席者：5名

(議事録よりトピックスのみ)

## I 会長挨拶

- ・新入会員の研修会を提案し承認された。詳細は三役、グループ長と協議し幹事会に提案する。
- ・奈良カトリック幼稚園より園児約 50 人の稲刈り体験を依頼された報告があり、承認された。

## II 事務局・会計報告

会員数：174名（退会：3名、入会：5名）

## 2 月度会計報告（予算の進捗状況が良好）

### III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

- ・3か月と当月スケジュールの検討と確認
  - ＊詳細は、メール連絡、またはHPに記載
- ・ならやまプロジェクト関係
- ・イベントの担当表が提案され、討議の上、承認された。(各行事：幹事3名が割り当てられた)

#### IV 企画・助成金関係

1. 図録集編纂：4月7日の印刷発行
2. 林野庁交付金事業の報告書を提出（事務局）
3. 各助成金の活動内容の報告（羽尻副会長より）

## V 喫緊・提案事項

1. 第18回通常総会 5/18（中部公民館）  
終了後、リガーレ春日野にて懇親会
2. 臨時幹事会 4月23日（中部公民館2F学習室）
3. 図録の配布、送付について説明  
図録作成に貢献された菊川、木村、西谷各氏に  
10冊贈呈すると提案があり承認された。

## VI 広報関係

- ・会報誌 5 月号編成案承認 (18 ページ)

## VII 報告・連絡、その他

- ・活動報告と予告：詳細は会報誌掲載  
(月例研修会、自然教室、歴文研修会、  
「桜まつり」、「天平祭」)
- ・新入会員歓迎会 3/28 (担当：桜木、戸田、中川)
- ・5 月度幹事会  
4 月 30 日 (佐保川地域ふれあい会館)

以上

◆ 申し合わせ ◆

- \* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報(奈良気象台17時発表)で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。
- お問い合わせ:八木
- \* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
- \* 臨時活動日を月曜日にすることがあります。  
(事前に担当役員から連絡します。)



## ◆ AI 時代

大峯千日回峰行・塩沼亮潤大阿闍梨は、「AIが経済を支配しても人の心は支配できない」と説く。

修行は、1に勤行<sup>こんぎょう</sup>、2に掃除<sup>ついでしやう</sup>、3に追従、4に阿呆とあり、追従とは、「出会った相手が喜ぶことをしなさい」、阿呆はもっと大変で、「お前阿呆やな」と言われても「ハイッ」と答えて、「いやな感情をパツと解き放つこと」だそうです。人としての器が大きくなければ出来ません。

AIには、同じ「はい」でも、「ハイッ」と「はい」「はい」の違いが分かりません。

ならやまのフィールドで活動される皆さんにも何か参考になるでしょうか。我々が管理している里山林をより良い形で次世代に引き継ぐため、誰かの命令に従うのではなくて、自分で考えることが求められるようです。

(行々子)

## 会報誌[ネイチャーなら]・第208号

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>



編集者一ム：青木（幸）、青木（芳）

千載、澤田、田代、戸田、山崎、坂東

表紙写真 「野菜畑の整備」

満開の川井桜が見守る中で野菜畑の整備

(4月18日)